

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4590600070		
法人名	社会福祉法人ひまわり会		
事業所名	永寿園グループホームひむかてらす	ユニット名	1ユニット
所在地	日向市大字富高6957番地1		
自己評価作成日	平成25年5月20日	評価結果市町村受理日	平成25年7月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年6月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

平成24年5月1日に開所し、お陰さまで1年が経ちました。住宅街の高台にあり、日向市の街並みが一望でき、隣には若宮公園があり、春には桜が満開で、秋には彼岸花が咲き誇り、四季折々を感じる事ができます。今年は、他のグループホーム・小規模多機能ホームと合同でお花見を行いました。見学に来園された方々は、建物が新しくきれいで、ご利用者・職員が落ち着いた雰囲気があって、とてもいいですねとほめて下さいました。また、地域の区にすぐに入り、行事や若宮公園の掃除に積極的に参加しております。地区の皆様より、若宮公園の防犯がよくなったと喜んでいただきました。区の方々が、ボランティアで訪問して下さるようになってきております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者と職員は、老人会の方と一緒に登校時、見守り立ち番、地域のいきいきサロンや清掃に参加するなど、開設して1年であるが「ひむかてらすを地域に根ざす」というホームの目標を着実に実践し、利用者の喜びにつなげている。災害対策においても、近隣住民や地域の協力を得られる体制になっている。ホーム内・外の研修会出席も多く、職員の質の向上が図られ、職員間の人間関係が良好で、働きやすい職場環境になっている。調理や掃除を担当するパート職員を配置するなど、日中の人員配置に余裕を持たせ、利用者の個別ニーズに対応している。職員は、プライバシーに配慮した穏やかな声かけを行い、利用者とゆったりした穏やかな空間を共有している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価		
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に意識し、「ひむかてらすを地域に根ざす」を目標に、地域の行事に積極的に参加し交流を図るとともに、地域の中の一員として行動しています。	「ひむかてらすを地域に根ざす」という目標を着実に実践している。母体法人の理念を基に、管理者と職員は法人内の地域密着型サービス事業所と協力し、理念の作成に取り組んでいる。	現在取り組んでいる理念が、早期に完成されることを期待したい。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々へ会った時にあいさつする中で、少しずつグループホームに興味を持っていただいています。自治会行事に積極的に参加し、月1回の掃除には職員が参加しています。参加時は、地域の方々へ声かけていただいています。	自治会行事に積極的に参加している。利用者と職員が、いきいきサロンや老人会の方と一緒に登校の見守り立ち番に参加している。隣接する公園に日常的に散歩に出かけ、散歩に来ている地域の方と交流している。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用様が行事に参加したり、散歩してあいさつするなかで、ご利用様の理解をされているようです。いきいきサロン参加時には、いろいろと質問されており、興味を持って頂いている様子でした。認知症の方々の生活を知って頂く機会とし、民生・児童委員の方の事業所見学も随時行っています。	/		/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度は「運営推進会議」を開催し、委員のご意見やご家族のご意見を頂き、改善できることは改善するように努めています。面会カードは各ユニットに設置し、推進会議時はネームプレートを設置するようにしました。	運営推進会議には、多数の家族の出席があり、意見や要望を表せる機会となっている。出された意見により、会議時のネームプレートの作成や面会カード設置場所の改善がその後の活用につながっている。また、ヒヤリハットを報告し、サービス向上に生かしている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険系の職員に、運営推進会議のメンバーとして参加していただき、情報やアドバイスをいただいています。また、サービスの状況や利用者様の状況を報告しています。	市の担当職員が運営推進会議のメンバーとして会議に参加している。ホームの実情や取組を伝え、情報を共有している。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないように職員間で研修を行いました。帰宅欲求のあるご利用様と一緒に歩いたり、散歩しております。また、ご家族にも協力して頂きました。言葉の拘束にならないように、職員間でも気を付けています。	利用者の外出しそうな様子を察知した時は、声かけをし、制限することなく一緒に歩き、安全に配慮した対応をしている。身体拘束の弊害を十分認識し、リスクについて家族と話し合い、了解を得ている。近隣の方の協力も得られている。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について研修を行いました。研修会にも参加したり、意識を持つことで十分注意し、防止に努めています。	/		/	

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、制度を利用されている方はいらしゃいません。研修に関しては、今後取り組んでいきたいと考えています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、ご家族に分かりやすく説明し、疑問点の確認やいつでも質問していただけるような関係づくりをしています。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者への相談窓口を「重要事項説明書」に掲載しています。ご家族の面会時には、ご要望をお聞きし、信頼関係を大切にしています。		家族の来訪時や運営推進会議出席時を家族の意見や提案を聞く機会ととらえている。利用者からも管理者や職員に意見や要望を出してもらっており、出された意見や要望を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員間のミーティングと研修を開催し、サービスに対する意見や提案をしてもらっています。また、年4回の職員を対象とした面談を通して、働きやすい環境づくりをしています。		運営推進会議や毎月のミーティングで、職員の意見や提案を聞く機会がある。職員との面談でも個別に聞く機会があり、出された意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得のための支援や面談を定期的に行い、職員の向上心を高め、環境条件の整備を行っています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	永寿園全体研修や各部署での研修などを定期的に開催し、レポートを提出し、参加出来なかった職員も資料や参加職員に報告を聞き、レポートを提出しています。年度初めには目標を3つたてて、面談時に進捗状況などを話しております。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や県北のグループホーム研修に参加し、情報収集やサービスの質の向上につなげるようにしています。			

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入所時は、細かい声かけや配慮を行い、安心して生活できるように環境づくりに心掛け、本人の気持ちに寄り添い、家庭的な雰囲気でも落ち着いた過ごせるようにしています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規契約時に、家族の要望・不安に思われている事などを確認し、施設に生活することで不安の解消が出来るようにし、様々な機会にご家族とのコミュニケーションを図っています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様が、支援を必要とするものの確認と、ご家族の意見を聞き取り、サービスを行っています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来ることは継続し、声掛けでやる気を支援し、ADLの維持につなげています。やさしい声掛けを行い、同じ目線で話すようにしています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は、いつでも来ていただけるようにしています。また、状態の報告や訴えがある時は連絡を行い、協力をいただいています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と一緒に今まで行かれていた美容院に行かれたり、外食されたりしております。また、妹様の自宅に行かれ、日中過ごされて夕方帰ってくる時もありました。	家族と一緒に外出したり、家族の了解を得て自宅で過ごせるよう支援を行っている。毎日、携帯電話で遠方の家族と会話を楽しむ利用者や2週間に1回、なじみの地域にドライブに行く利用者など、関係継続の支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リハビリ体操やゲームなどの活動と一緒に参加して頂くようにしております。トイレの訴えがなかなか出来ない利用者様の様子を見られ、職員に教えていただく利用者様もいて助かっております。			

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院されている方のご家族には、電話で様子を伺ったり、お見舞いに行っております。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いや要望を各担当者を中心に状況の把握を行い、ご家族とも相談しながら思いを叶えられるように支援しております。		思いや意向の把握が困難な利用者や毎日の入浴時に職員と1対1の関係を作り、その利用者の思いを把握するよう努めている。担当者を中心に、思いや意向の把握に努めている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしについて、利用者様に話を聞いたり、ご家族に生活の様子を伺っています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回のミーティングで、情報の共有や毎日の連絡ノートでの情報の把握に努めています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回はミーティングを行い、担当職員を中心に、それぞれの意見を出し合い、個人の状態に合わせた対応を行い、介護計画にも生かしています。		モニタリングは3か月に1回としているが、毎月ミーティングを行い、利用者本位の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録以外に、連絡ノートでいつもと違う行動や気づきがあった時に記載し、職員に伝達しています。ミーティング時に再度話し合い、介護計画にいかしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体である、特養施設で開催される盆踊りの行事への参加やデイサービスでのボランティア訪問見学など、声をかけて頂いています。また、今年の花見は他のグループホーム・小規模多機能ホームと合同で行いました。			

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	東草場区のボランティアの方が時々来られ、アコーディオン演奏をしてくださったり、同じ区の実業家の先生に月2回訪問して頂いています。また、理・美容院に行きたい利用者様には、一緒に外出しております。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を図り、情報の共有や受診の送迎や介助などを支援しています。	適切な医療が受けられるよう、看護師が同行し、かかりつけ医の受診を支援し、家族に電話で報告している。協力医がかかりつけ医になっている利用者は、毎月1回の往診を受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職員を中心に、病院に連絡・相談を行っています。緊急時には、看護職員に連絡を行い助言をもらっています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者様の情報の提供を行っています。また、終末期の利用者様が入院を繰り返していたが、担当医・家族との協議で食事が摂取出来る間は、グループホームで生活していただきました。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の利用者様が入退院を繰り返していたが、ご家族・担当医と、食事が摂取できるまで、ひむかてらすで生活させたいとのことで、亡くなる10日前までひむかてらすで生活し、食べやすいもの、好きなものを提供することができました。	重度化した場合における対応に係る指針を作成し、同意書に記名・捺印し、方針を共有している。入院した場合、状況に応じて判断するということで、重要事項説明書にも記している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や初期対応の訓練を定期的に行い、実践につなげる内容にしています。AEDも設置しており、使用法の研修も行っています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の避難訓練を実施しています。また、運営推進会議の委員である区長や消防団の部長に何かあったときは、連絡させて頂くようお願いしております。	スプリンクラーを設置している。毎月避難訓練を実施し、夜間想定避難訓練も実施している。区長や消防団の部長に協力を依頼し、近隣の住民とも協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに対して接し方も違うため、プライバシーを配慮し、その人に合った言葉かけをしています。特に排泄時や入浴時は、プライバシーを損なわないように注意しています。	プライバシーに配慮して、利用者の耳元でさりげなく声かけをしている。職員は、一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に関して、常に意識して対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に様々な選択肢を準備し、自己決定できるように働きかけています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者様の状態を把握し、希望に添えるように支援していますが、本人・家族の都合・天候などの状況によって、実施できないこともあります。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近く的美容院を定期的に利用されているご利用者様、ご家族と一緒に美容院に行かれたり、月2回、同じ地区の美容院より来て頂き利用されている方がいます。また、季節に合わせた洋服を着用し、毎朝、パジャマより洋服に着替えをされています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや料理を作って頂いたりしています。また、テーブル拭いて頂ける方、食器を洗って頂く方がいて、みなさま楽しく手伝って頂いています。お茶碗・はし・湯飲みは持参していただいています。	食材の買い物や調理の下ごしらえ、後片づけなど、利用者の個々の力を生かしながら共に行い、職員と利用者が一緒に食事をしている。ドライブを兼ねての外食など、食事を楽しむことができるよう支援を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の食事の摂取量を毎日チェックし、状況を把握しています。水分量の少ない方はこまめに摂取していただいています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが自立されている利用者様には声かけをして歯磨きをして頂いています。また、十分出来ない方は、はじめは自分で頂き、最後は介助しています。			

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン把握の為、チェック表を記入し、必要な利用者様には、声掛けや洗浄などを行っています。夜間はトイレ・ポータブル・尿パット交換など、それぞれに合わせた支援を行っています。		一人ひとりのサインの把握や排せつチェック表を活用して声かけやトイレ誘導を行い、トイレでの排せつや排せつの自立に向けた支援を行っている。紙パンツから布パンツとパットに変更し、利用者に合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、便秘時には水分補給・散歩・体操で体を動かしたり、腹部マッサージをしています。定期的に緩下剤の服用もされています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望・状態に応じて毎日の方、1日おきの方がいます。入浴時は1対1で入って頂き、ゆっくり会話できる時間にしています。		入浴時間は決めてあるが、できるだけ一人ひとりの希望時間帯に入浴できるよう配慮している。職員の提案で入浴回数を個別に対応し、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に合わせ安静にされている方もいますが、昼間は出来るだけ起きて頂き、夜はぐっすり眠れるようにしています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服薬状況をまとめ、いつでも確認できるようにしています。薬が変わった時は、看護職員が職員に伝えるように申し送りや連絡ノートを活用しています。また、朝・昼・夕と二人で確認・仕分けし、確実に服薬出来るように支援しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品については、午前のお茶の時間はお茶・コーヒー・牛乳・ジュースなど、メニューの選択をして、楽しんでいただいています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	直ぐ前が公園になっており、四季折々の季節感を感じられ、晴れた日には公園の散歩をほぼ毎日行っております。散歩の途中には、近所の方との交流も持たれて、楽しみにつながっています。状況に合わせた車いすでの散歩で、無理なく外出が出来ています。		晴れた日の公園の散歩や法人の車両を利用したドライブなど、外出の機会を大切にしている。洋服を買いに行ったり、2週間に1回車で自宅周辺に外出して外食するなど個別ニーズに対応した支援を行っている。	坂道の手すりについて、職員も危険を認識し、運営推進会議でも提案が出され、法人へ設置を要求しているが、日常的な外出を支援するためにも早期に設置がなされることを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を所持されている方もいたが、洗濯物の中に入れていたり、チリ紙に入れてポケットにいれたまま捨てたりしている事が多く、本人話すと心配だから持っていて下さいと言われ、預かっています。買い物の際は、財布を渡して美容院に行ったりしております。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	県外にいるご家族より定期的に電話がかかって来られるので、楽しみにされています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音の大きさ・照明・温度調整は利用者様の希望や状況を観察して調整しております。飾りも季節感を取り入れるようにしております。2月はひな人形を4月はかぶとを置いて、こいのぼりを上げて喜ばれていました。	共用空間は、利用者一人ひとりが自由に過ごせるようテーブルやソファが配置され、ゆっくり過ごせるように工夫をしている。季節の行事に合わせた飾りつけや生花などで季節感を取り入れて、居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居場所を大切にしながら、居心地よく過ごせるように配慮しています。ご利用者同士で時には仲良くされたかと思ったら、次の日には喧嘩されて離れていたりしておりますが、同じ空間で一人になったり、一緒になったりしております。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスを部屋におかれたり、ご家族の写真を飾ったりしております。	使い慣れたタンスや衣装棚が置かれている。仏壇には毎朝ご飯を供えて、個別支援を行っている。壁の洋服掛けには、それぞれの好みの服が掛けてあり、衣類の選択ができ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに手すりがほしいとのご利用者様の希望があり、手すりを設置し、ひとりでトイレに行くことが出来ました。			